
凶器 = 狂気 = ナイフ

夜鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

凶器Ⅱ狂気Ⅱナイフ

【Nコード】

N8643C

【作者名】

夜鳥

【あらすじ】

愛したから変わってしまった。愛しているから手に入れたかった。そんな狂気。

苦しい、悔しい、哀しい。
でも。

何故だろう、清々しい感じさえも有る。

憤慨する程の何かがあった訳じゃない。

体中から負の気が流れ出ているよう。今感じるのは意味も無い喪失感。

体の芯が抜けてしまった様な、大切な宝物を無くしてしまった様な感覚。

何故だろう。

その理由は分からないまま、私は目の前の鏡に映った自分を覗く。

思い出すのは狂おしい感情。

心底の苦しさに火をつけられた。

逃れようと足掻けば口から漏れる自らへの嘲笑。

『…逃れとて、涸れた此の身に何が残ると言ふ』

笑みを顔に浮かばせながら、剥き出しの自分を眺め見る。

「呆れた」

服に真っ赤な血が付いてるじゃない。

私から離れてゆく『其れ』に追いつけないとは分かっていた筈。否、自分の中で納得できていない節が有ったのもまた事実。だからこの現実も未だ理解不能。何故だろう。

彼女を狂気へと向かわせた記憶は固く口を閉ざしたまま。

見てしまった。

見たくなかったものを全て目の前で。

だから壊した。

バラバラになってしまえば、私の物になるの。壊れたの。壊れたもの。

もう、あの場所には戻らないでしょう？

「ねえ、貴方」

そう言つて『其れ』を抱きしめれば、洋服にまた折重なつて、深紅の染みが広がった。

彼女の胸に広がるは澄んだ狂気。

彼女の手には、鈍く光る銀色の凶器。

そしてその身の側で横たえる者は…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8643c/>

凶器 = 狂気 = ナイフ

2011年1月20日04時37分発行